



認知症、隠さないことが事故防止



2月末の米国とイスラエルによるイラン攻撃開始以来、毎日猫の目のように変わるトランプ大統領の発言に振り回される日々が続きます。米国民がこの人を選んだ結果、世界中が振り回される、爆弾が降ってくる。

翻って日本では、先日の閣議決定で日本は武器輸出ができる国になってしまいました。かつての外務大臣が「兵器を売るほど落ちぶれていない」と断言したのを問われて「時代が変わった」と言ってはばからない総理大臣を選んだのも(直接ではないにしろ)私たち日本国民です。私たちの国で作った兵器が他国民を殺傷する。時代が変わろうと政権が変わろうと認められません。介護は人々の生活を守る仕事、戦争は命も生活も破壊します。

2024年中に届け出のあった認知症の行方不明者は1万8121人。12年は9607人でしたから、1.9倍に増えています。うち亡くなった人は491人、2025年末まで未発見の人は171人(発見の届けがなかった人数)と報道されています。「ひとり歩き」による行方不明事故は「認知症かな？」という時期に起きることが多いのです。介護保険の要介護認定前が最も多いというデータさえあります。要介護3になると少なくなり、それ以上になるとほぼおきません。

実家のご近所で子どもころから知っていた男性が、この冬行方不明になり10日後に発見、崖地で転落して亡くなられていました。少し歩けば山に入る地域、妹と「見つかっただけでも良かった」と慰めあいました。この男性が歩き始めて間もない時間に会った知人が「知っていればひきとめたのに」と嘆いていたそうです。危ないなと思ったら、みんなに知らせる、それも事故防止になります。ちなみにこの知人は認知症があることは知っていても、「ひとり歩き」でいなくなってしまうことは想定できなかったようです。

日本で最も自殺率が低い町には「病いは市(いち)に出せ」という格言があるそうです(岡檀著「生き心地のよい町 ～この自殺率の低さは理由がある」講談社刊)。心身の不調は周りに伝えておくことで防げることがある。通常は隠しがちな精神疾患もあけっぴろげに話すことで地域で見守ることができ、また早期の受診にもつながる。認知症についても同じことが言えるように思います。かつては認知症なのが知られるので、えんの送迎車は一本先の道に停めてと依頼する家族がいました。さすがに少なくなったものの、今も皆無ではありません。誰でもなり得る病気です。早めに知らせる、みんなで見守る。事故防止だけでなく、偏見をなくしていく大きな一歩です

代表理事 小島美里